



令和5年 10月6日(金)

体育祭を終えて（評価と御礼）

先日（十月三日）、秋晴れの空の下、生徒会スローガン「挑越へ一歩ずつ前へ」をテーマに体育祭を開催いたしましたところ、早朝より多数ご参観いただき、感謝申し上げます。

生徒会役員による開会式に続き、元氣澆刺とした選手宣誓や躍動感あふれる準備運動（リズムエクササイズ）で始まりました。最後は三年生学年種目（8の字跳び）における奇跡の大逆転で終え、大変感動的な一日となりました。

各学年とも、全員リレーや選抜リレーにおいては、**多少差が開いていても最後まで懸命にバトンをつなぎました。**その姿には、本校生徒の気質がよく表れていたと思います。

また、係活動においては、**きびきびと意欲的に取り組む様子に責任感や誠実さを感じました。**また、**明るさとユーモアも発揮され、清々しさや微笑ましさも感じる一幕もありました。**

どの場面を切り取っても、「全力」「あきらめない」そして「楽しむ」の三つが強く印象に残り、生徒会スローガン・体育祭テーマに迫ることができたかと評価しています。

今後のさらなる成長に期待を込めて、見守ってまいります。



授業のようす 「学校日誌(10/4)」より

体育祭を昨日終えたばかりの教室では、クールビズを終えて今日から制服に切り替えての授業となりました。文化・学問の季節でもある秋を迎え、体育祭で発揮された力を各教科の勉強にも活かし、一層集中して取り組んでいきたいと思えます。

一年生数学では、文章題が黒板上に図にとし示され、さらに読み取られた数値が表にまとめられていきました。

文↓図↓表と変換し、式が立てられ、解が求められるという過程で話し合いを通じて筋道立てて理解していきました。



二年生社会（地理）では、

東海地方の農業の工夫について、思考ツール（イメージマップ）を使ってまとめました。

それらをもとにキャベツなどの抑制栽培が盛んな地域があることに気づき、その理由や背景について雨温図を根拠に文章にまとめていきました。



三年生理科は記録タイマーで記録したテープから単位時間当たりの移動距離を読み取る実験を行いました。

結果を表やグラフにまとめ、それらを分析して解釈し、時



間と速さの関係などの規則性を見出して理解するグループ学習を進めていきました。

新聞の話題から、時間と言葉

九月三十日の朝刊各紙に文化庁が発表した「国語世論調査」の結果が掲載されました。これによると、「推し」「盛り」「引く」「寒い」など既存の言葉に新たな意味の加わった表現が日常会話で使われているようです。

また、慣用句でも、「涼しい顔」は、「知らんぷり」ではなく「平気そう」、「忸怩たる思い」は、「恥じ入る思い」ではなく「残念でもどかしい」と捉える割合が高まってきているようです。

同調査によると、こうした傾向は若い世代ほど顕著ということです。生徒たちの会話を聞いていても確かにそのとおりで、ここにもインターネットやSNSの強い影響が感じられます。

これらはすでに辞書にも新たな意味として表記され始めており、決して一時の流行としてやり過ぎせないようです。言葉は時代によってつくられ、移り行くものなのです。

記事を読み、時の流れを憂うよりも若い世代の言葉に積極的に耳を傾け、今という時間を共有していきたいと感じました。また、言葉は心（愛）を伝えるものでもあります。言葉には敏感かつ繊細でありたいものだと思います。

十月四日の読売新聞には、サザンの桑田さんが『勝手にシンドバッド』の「胸騒ぎの腰つき」という歌詞を「胸騒ぎ残しつつ」等に変える案を却下した逸話が書かれていました。

こうした記事の活用を通じ、世代を越え感性や価値観を生徒と共有し、生き方に迫っていききたいと考えています。

